

ライトゲーム、オールマイティ **LIBRA EXRange** ライブラEXRange

▼全10アイテムのラインナップ。ほとんどのライトゲームをカバー

●ライブラのDNAを受け継ぐ最新ライトゲームロッド「ライブラ エクスレンジ」が登場した。昨今のライトゲームの多様化に伴い、オモリ負荷10~150号、全長1.8~2.25メートルまで全10アイテムをラインナップ。湾内の根魚、アジ、タチウオはもちろんヒラメ、アマダイ、中深場の根魚、アカムツ、ライトヤリイカ、ライト落とし込みなど、ほとんどのライトゲームをカバーするスペックを持っている。

素材の進化による軽量化はもちろん(Lで比較すると前作より15グラム減)、穂先には高感度カーボンソリッド「スーパートップ」、軽量高感度のオリジナルダウンロック式リールシート(H-215とXH-225はトリガーレス)、EVA素材のエンドグリップの採用など、あらゆる点で進化した最新ライトゲームロッドの誕生である。好評発売中。

タイプ	標準全長(m)	希望本体価格(円)	標準自重(g)	仕舞寸法(cm)	使用材料(%)	モーメント	継数(本)	先径(mm)	錘負荷(号)
L	1.8	38,000	115	135.0	C99.9 G0.1	4.9	2	1.1	10~50
ML	1.8	38,000	116	135.0	C99.9 G0.1	5.2	2	1.15	20~60
ML	2.1	39,500	134	145.0	C99.9 G0.1	6.7	2	1.15	20~60
M	1.8	38,000	119	135.0	C99.9 G0.1	5.4	2	1.2	30~80
M	2.1	39,500	136	145.0	C99.9 G0.1	6.9	2	1.2	30~80
MH	1.8	38,000	124	135.0	C99.9 G0.1	5.7	2	1.25	40~100
MH	2.1	39,500	144	145.0	C99.9 G0.1	7.4	2	1.25	40~100
H	1.8	38,000	127	135.0	C99.9 G0.1	5.8	2	1.3	60~120
H	2.15	40,500	176	135.0	C99.9 G0.1	9.5	2	1.3	60~120
XH	2.25	40,500	187	145.0	C99.9 G0.1	10.7	2	1.35	80~150

※C=カーボンファイバー、G=グラスファイバー。※モーメント=標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)。※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用

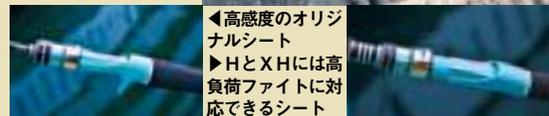
▶レクチャーしつつも次から次へと掛けていく



▲攻めのライトアジ釣法でアジも連発
▶「タチウオより簡単でした」と短時間でツ抜け達成



▲ガイドはスパイラル設計に



◀高感度のオリジナルシート
▶HとXHには高負荷ファイトに対応できるシート



▲まずは横須賀沖でタチウオ釣りから
▶苦戦しつつも三石さんの手ほどきを受け、ようやく1本目



▲納竿間際に待望の一荷釣り達成



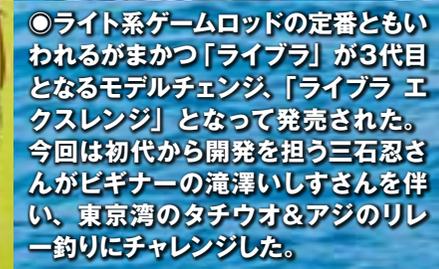
★滝澤さんは連発で良型を掛ける三石さんに脱帽の表情



▼ライブラエクスレンジのお披露目は三石さんが初心者向けにレクチャーしながらの釣りだった



▲滝澤さんは信頼のがまかつ仕掛けを使用
▶アジはオモリ40号、滝澤さんは2本バリ仕掛けで



★リレーのアジ釣りではM H180で35センチ級の大魚を釣り上げた

と三石さんは締めくくった。

「ライブラエクスレンジ、すべての点で進化しています。アイテムも豊富なのでぜひ一度手に取ってみてください」と三石さんは締めくくった。

午後2時納竿。タチウオもアジも十分過ぎる釣果で笑顔での帰港となった。「一日竿を持って疲れ知らず。アタリが穂先にしっかり出て、手にも伝わってくるんです。とても楽しい釣りを経験できました」と滝澤さん。

「ライブラエクスレンジ、すべての点で進化しています。アイテムも豊富なのでぜひ一度手に取ってみてください」と三石さんは締めくくった。

次は東京湾の人気ナンバーワン魚種、ライトアジだ。

「東京湾のライトアジならMLかMですね。彼女にはそのままMを使ってもいいです。私はちょっと硬めのMH180で攻めの『ライン引き釣法』を楽しみます」

10分ほど走った水深45メートル前後、タナは底から3メートルで釣り開始。しばらくは船中ボツボツ状態だったが、数度目の移動から入れ食いモードに突入。それまでに三石さんからアジ釣りの基本をみっちり仕込まれていた滝澤さんはいい波に乗ったようので25センチ級を連発。

一方の三石さんは途中から同じ竿を使いテンヤ釣りに変更(同船では平日のみテンヤ釣りも可)。テンヤ釣りならではの1メートル級の良型をキヤッチしてタチウオ釣りを終えた。

数本を連釣したあとは、まだ型を見られない滝澤さんをコーチ。名手の手ほどきを受け、なんと1本目を手にした滝澤さんはコツをつかめたよう。11時の釣り物チェンジまで5本をキヤッチした。

「東京湾のタチウオ用にはML、H、ライトアジ用にはL、MH。この中から釣り方、好みなどで選んでいただければいいでしょう」と三石さん。

今回の釣行は新製品のお披露目ともあって、三石さんは全アイテム10種を持参してくれた。

「東京湾のタチウオ用にはML、H、ライトアジ用にはL、MH。この中から釣り方、好みなどで選んでいただければいいでしょう」と三石さん。

乗船したのは東京湾奥金沢八景の一之瀬丸、タチウオ&アジのリレー釣りという、新製品を使い回すにはうってつけの乗合だ。7時に出船し、まずはタチウオ狙いで横須賀沖水深65メートル前後へ向かう。

タチウオはオモリ60号のテンピン釣り。ほとんど未経験の滝澤さんにはM180を手渡し、三石さんは攻めのスタイルを披露すべくH180からのスタートだった。海面からの指示ダナ55、60メートルで釣り始めると、なんと三石さんは1投目からアタリをとらえ、90センチ級の中型を取り込む。